## 町ホームページ大幅リニューアル

町のホームページがリニューアルされました。 今回のホームページはJIS規格(日本工業規格)に基づいて作成しており、文字のサイズを自由 に変更できる機能を搭載しているほか、表示スタ イルや表記に一貫性をもたせるなど、パソコンの 初心者や高齢者、障がい者などに配慮し、誰にで も「見やすい」・「使いやすい」ホームページとなっ ています。

また、新冠町のホットな情報を発信したブログ 「新冠だより」も定期的に掲載をしていますので 是非ご覧ください。



# ご家庭における節電のお願い

東日本大震災以来、継続した節電の取組みが呼び掛けられ、町としても照明機器の使用抑制、LED照明の導入促進などの取組みを行ってきており、また、各家庭においてもそれぞれに節電の取組みを進めている状況であるかと思います。

ほくでんは、今夏の需給見通しとして、これまでの各家庭や企業における節電取組みを見込み、 安定供給する最低限必要な供給予備力は確保できる見通しですが、引き続き無理のない範囲での節電への取組みを呼び掛けています。

ほくでんで呼び掛けている節電アクションについてご紹介します。

#### ①節電をお願いしたい期間と時間帯

·期間:7月1日(月)~9月30日(月)

・時間:平日午前9時~午後8時 特に夕方以降(午後6時~8時)

#### ②節電にご協力いただきたい電気製品

・照明、冷蔵庫、テレビ(家庭電気量全体の7割) ③ Web 料金お知らせサービス

このサービスは、パソコンから過去 24 カ月の 使用量・推移が一目でわかるもので、使用量の削 減効果の把握ができます。ほくでんホームページ から無料で登録できます。

#### ④緊急時の一層の節電のお願いについて

気温の急激な上昇などにより、需給ひっ迫が想定される場合に、停電回避のため、政府よりあらかじめ「電力需給ひっ迫警報」を発令し、緊急の節電をお願いさせていただく場合があります。 万一、電力需給のひっ迫が予想される場合、テレビ・新聞などのほか、あらかじめ登録されたメールにお知らせし、緊急の節電をお願いいたします。

また、このお知らせメールは、携帯電話・スマートフォンからも簡単に登録することができます。 登録を希望される方は、ほくでんホームページで 登録方法についてご確認ください。

#### ※「ほくでん」の名をかたる不審者にご注意を!

最近、電気料金値上げ申請に便乗し、工場・商店・事務所を経営されているお客様に、「ほくでん」や「ほくでんの委託」と偽って、検針票などに記載されている契約内容を聞き取り、契約内容の見直しを勧誘する事例が多発しています。

「ほくでん」や「ほくでんが業務を委託する業者」 では、動力設備の調査や機器購入の勧誘すること は、一切ありませんのでご注意ください。

# 

#### 「今年のサマージャンボ宝くじは、1等・前後賞合わせて5億円」

**☆ 1 等 / 3 億円 ×26 本・前後賞各 / 1 億円 ×52 本☆** (発売総額 780 億円・26 ユニットの場合)

#### 「2000 万サマーと同時発売」

**☆ 1 等/ 2000 万円×450 本☆** (発売総額 270 億円・9 ユニットの場合)

# 役場からのお知らせ

-Niikappu Town Office Information-

# 「一日前プロジェクト」の連載について

東日本大震災から2年が経過しましたが、我々はこの大災害の記憶を風化させることなく、後世に伝えていかなければなりません。また、それと同時に明日起きるかもしれない災害に、常日頃から備えておくことも重要です。今月広報から、内閣府で作成された「一日前プロジェクト」を掲載することとします。

#### 一日前プロジェクトとは?

地震や水害・雪害などの自然災害で被災した方々や 災害対応の経験をもつ方から、色々なお話を聞かせ ていただき、小さなエピソード(物語)として取りま とめる活動です。

こうしたエピソードをとりまとめることで、災害をイメージし、自分のこととして感じてもらうことにより、明日起きるかもしれない災害に、今日(一日前)から備えていただくことを目的としています。

なお、広報で紹介できる内容は、限られたものになりますが、同内容は内閣府のホームページでも見ることができます。「一日前プロジェクト」で検索してください。

●問い合わせ先 総務企画課まちづくりグループ防災係☎ 0146・47・2498

### 「一日前プロジェクト」エピソード No.1 指揮官いなくとも気心知れた者 同士で難局に立ち向かう

東日本大震災発生当日は自治会長である私は、京都へ旅行中でした。浦安の自宅には息子がいましたが、 連絡は取れません。テレビから流れるニュースは津波 の話ばかり。これには正直、参りました。

その後、浦安も被害を受けているらしいと知ったときは、団地の自治会長をやっている立場から、団地の皆さんはどうしているだろうか、大丈夫か、混乱しているのではないかと、我が家のこと以上に不安でいっ

ぱいになりました。

甚大な被害を受けたニュースばかりが放映され、当たり前のことですが被害の小さいところは全く情報が入ってこない。しかし、住民には足の不自由な方や高齢者、独居者もいましたから心配でした。翌々日の13日には、車を飛ばしてやっと戻ってきたとき、自治会や住民の皆さんの顔を見て全員の無事がわかり、ホッと安どしたのを記憶しています。

しかし、自治会長が指揮を執らなくても粛々と自治会メンバーが各自の仕事を分担していたときは本当にうれしかった。これも日ごろの自治会の交流があったからだと思っています。

だれが何を担当するということを決めなくても、おのずと気心知れた者同士では得意な仕事を各自がこなしていく。それを緊急時に見事に力を発揮してくれたのだと思います。夏祭りなど、日ごろの活動も訓練になったのかも知れません。これまでの活動を通じて培った連帯感が、信頼感につながって、今回の被災を乗り切れたのだと思います。

(浦安市60代男性 自治会役員 平成23年8月取材)





